



不登校児童生徒等実態調査の結果について



令和 6 年 6 月 1 4 日
千葉県教育庁教育振興部
児童生徒安全課
0 4 3 - 2 2 3 - 4 0 5 5

本調査は、不登校児童生徒の教育機会の確保に関する施策を総合的に推進するため、支援を必要とする子供たちやその保護者のニーズや、フリースクール等の民間団体の活動状況及び諸課題を把握し、今後の施策の推進に役立てることを目的に令和 5 年度に実施したものです。

1 調査の内容

(1) 調査対象：県内小中学校の不登校児童生徒（※）及びその保護者、県内フリースクール等

※令和 4 年度（小学校 1 年生・中学校 1 年生の場合は令和 5 年度）に、30 日以上学校を欠席した児童生徒

(2) 調査期間：令和 5 年 1 2 月 1 3 日（水）～令和 6 年 1 月 2 2 日（月）

※調査は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に委託

(3) 質問項目：①不登校児童生徒

学校を休み始めた時期／学校に行きたくないと思ったきっかけ／自分の気持ちを相談できたか／学校を休んでいる間の暮らし／学校を休んでいるときの気持ち／学校を休んでいる間の支援／支援や環境に対するニーズ

②保護者

子供の不登校の状況／子供との関わり方／相談・支援の状況／ICT環境・活用状況／必要な相談・支援等

③フリースクール

団体・施設の概要／その体制及び活動内容／家庭や関係機関との連携

(4) 回答率等：① 不登校児童生徒 19.2%（回答数1,753/対象数9,131）

② 保護者 19.4%（回答数1,775/対象数9,131）

③ フリースクール等 46.0%（回答数 52/対象数 113）

(5) 公表方法：県ホームページに調査報告書を掲載

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/jisei/seitoshidou/jittaichosa/jittaichosahokoku.html>



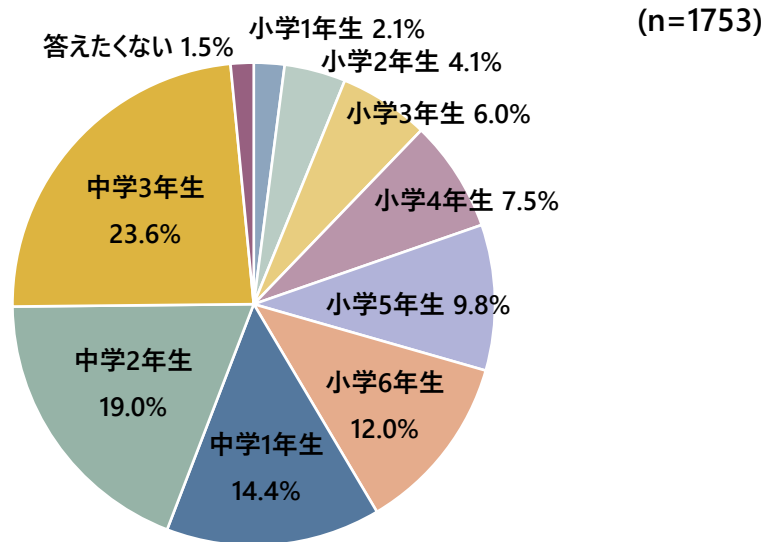
QRコード

2 調査結果【概要】

(1) 不登校児童生徒

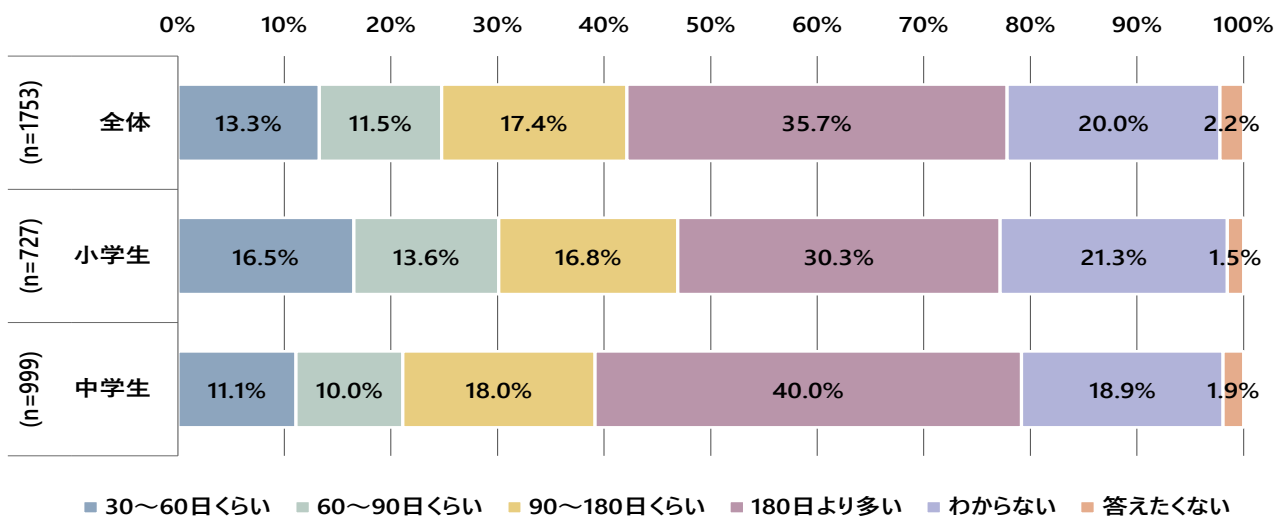
①回答した児童生徒の学年

児童生徒の回答者は、小学生が 41.5%、中学生が 57.0%であった。



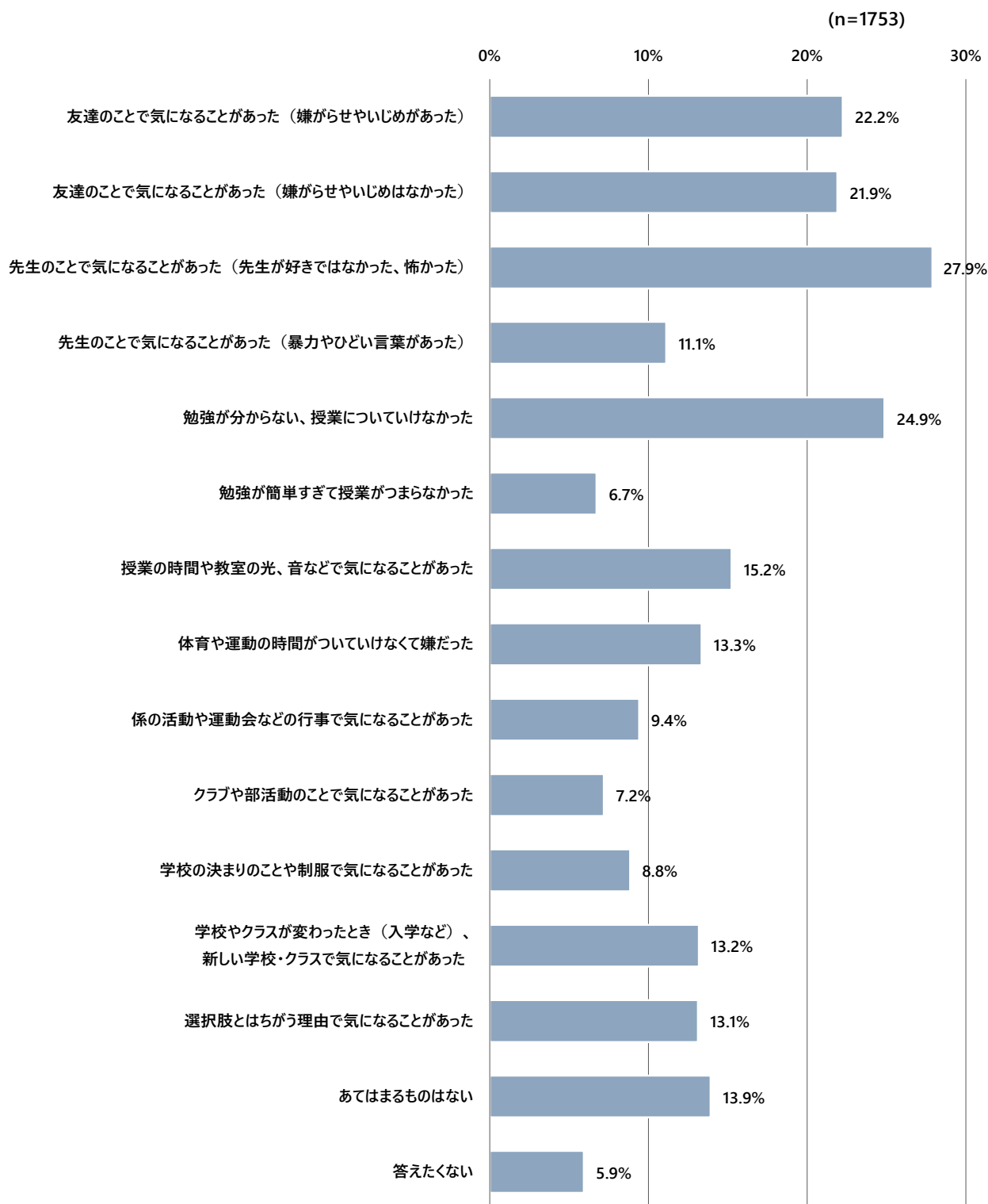
②令和4年度に学校を休んだ日数（学校種別）

「180日より多い」が最も多く 35.7%、次いで「わからない」が 20.0%、「90～180日くらい」が 17.4%となっている。



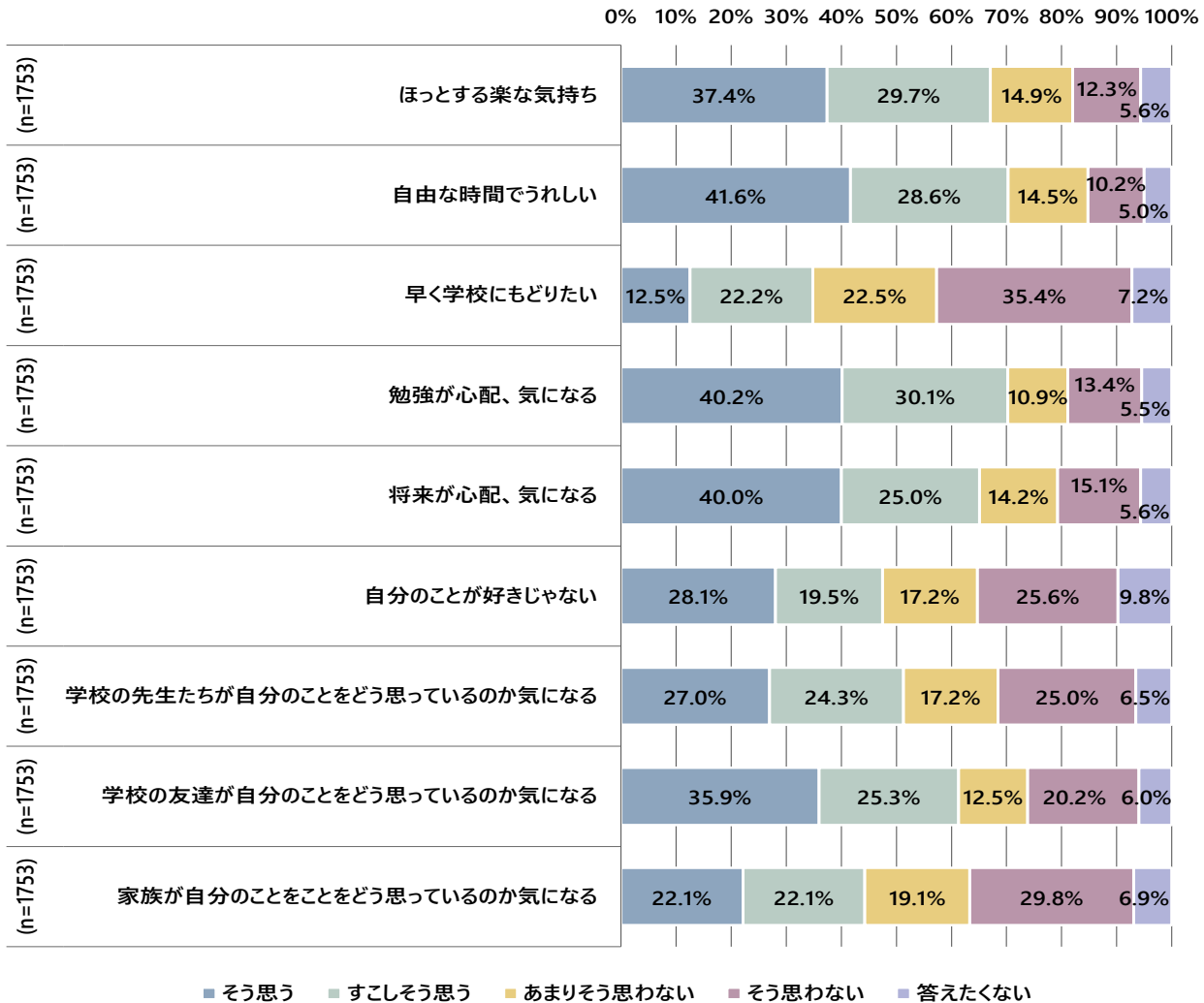
② 学校に「行きたくない」と思ったきっかけ（学校のこと）

「先生のことでも気になることがあった（先生が好きではなかった、怖かった）」が最も多く27.9%、次いで、「勉強が分からない、授業についていけなかった」が24.9%、「友達のことでも気になることがあった（嫌がらせやいじめがあった）」22.2%となっている。



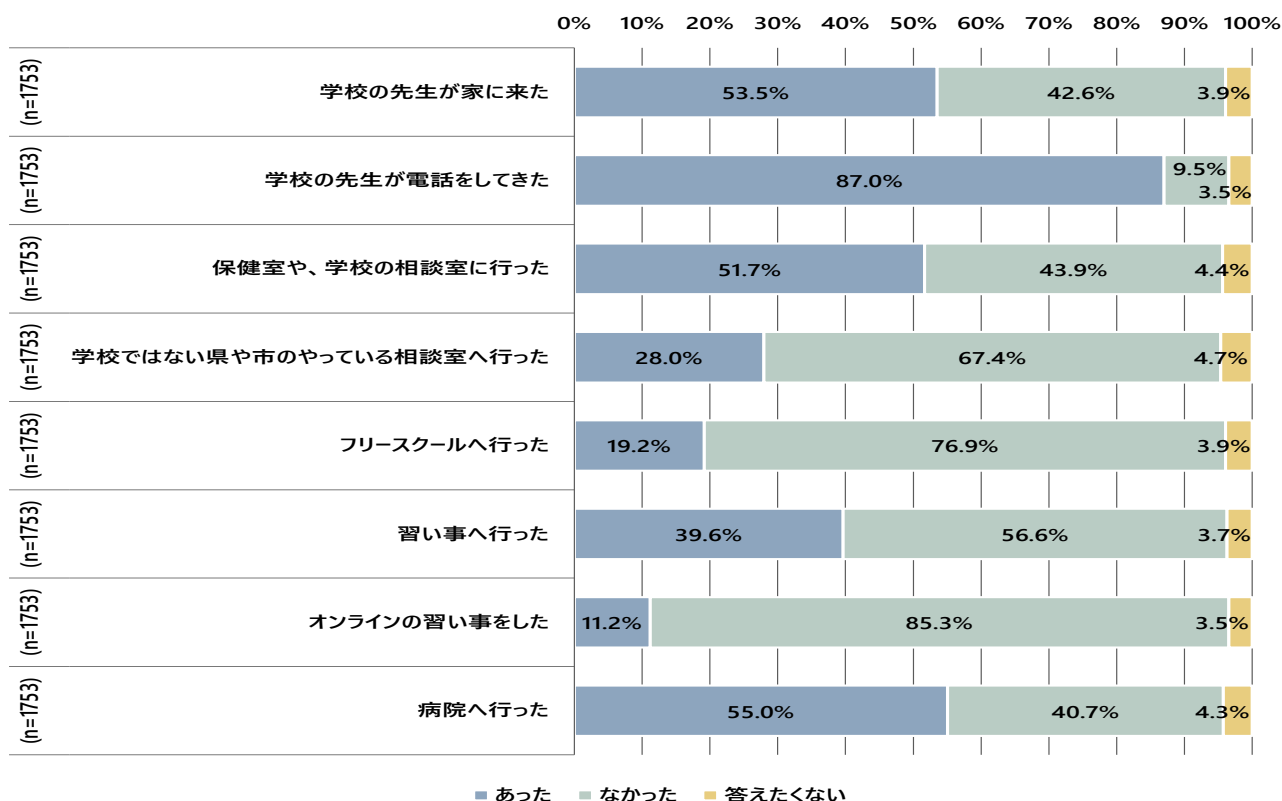
③ 学校を休んでいるときの気持ち

「そう思う」「すこしそう思う」の合計を見ると、「自由な時間でうれしい」(70.2%)、「ほっとする楽な気持ち」(67.1%)の回答が多い一方で、「勉強が心配、気になる」(70.3%)、「将来が心配、気になる」(65.0%)、「学校の友達が自分のことをどう思っているのか気になる」(61.2%)という回答も多くなっている。



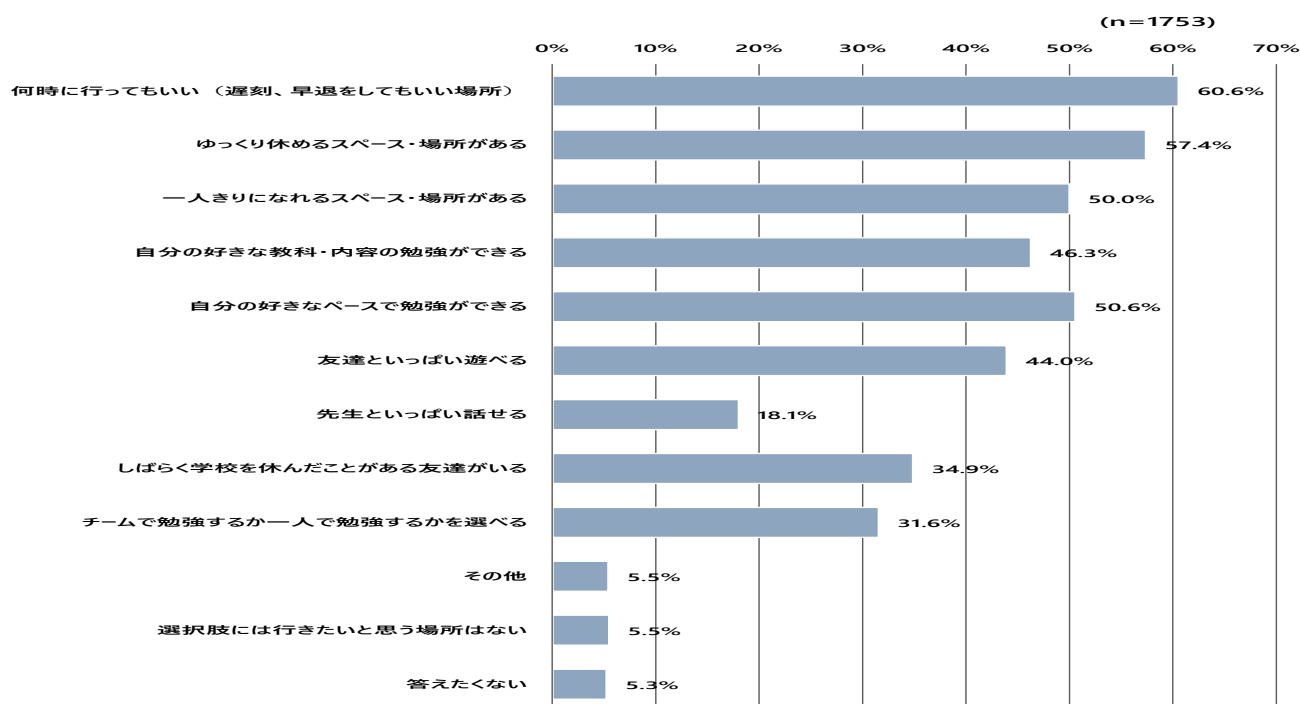
④ 学校を休んでいるときにあった・行ったこと

「学校の先生が電話をしてきた」が最も多く 87.0%、次いで、「病院へ行った」が 55.0%、「学校の先生が家に来た」が 53.5%となっている。



⑥ どんな場所に行きたいか

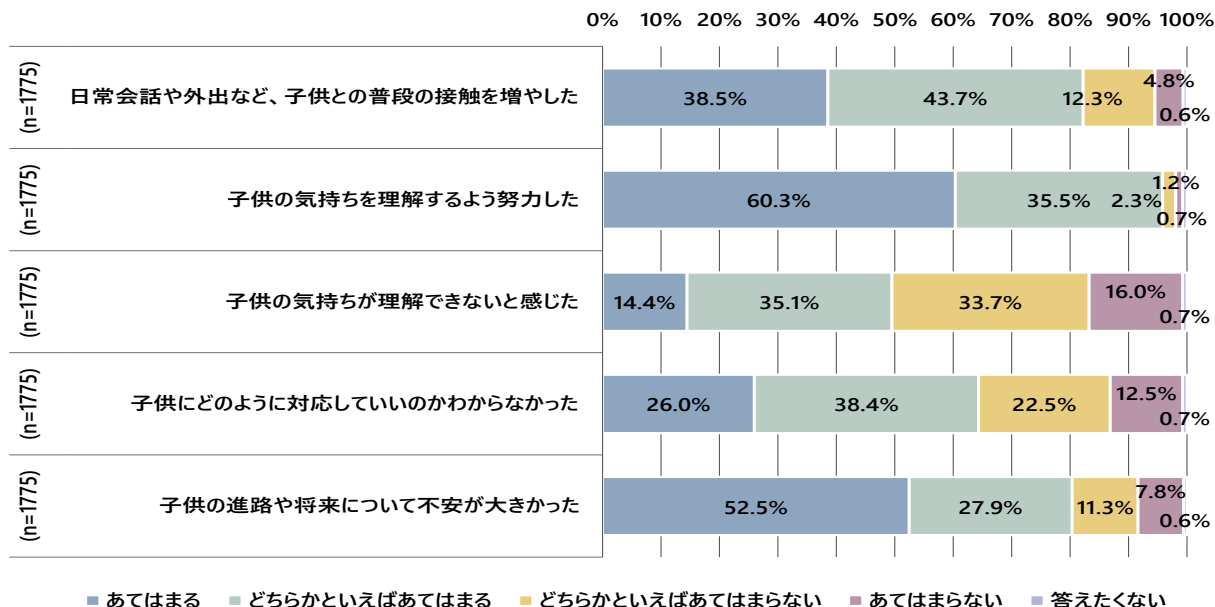
「何時に行ってもいい（遅刻、早退をしてもいい場所）」が最も多く 60.6%、次いで、「ゆっくり休めるスペース・場所がある」57.4%となっている。



(2) 保護者

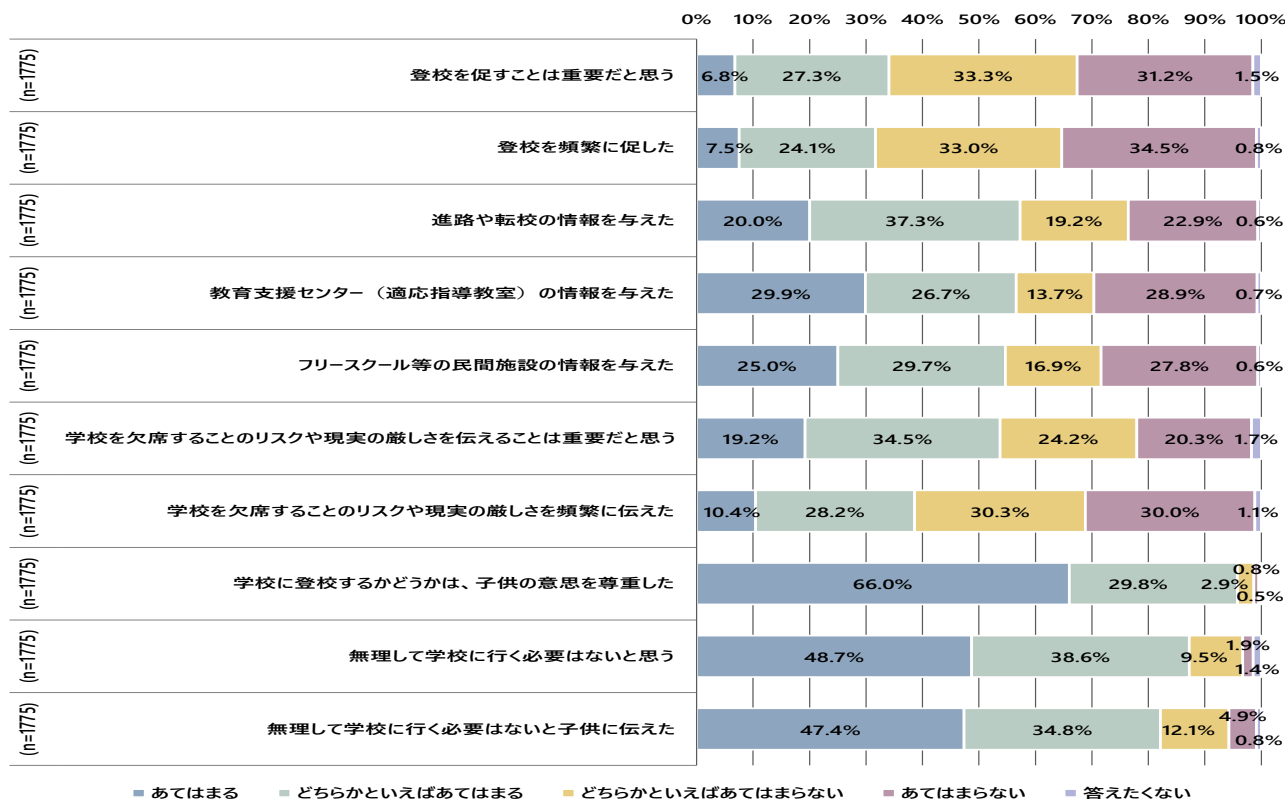
⑦子供との関わりについて

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、「子供の気持ちを理解するよう努力した」95.8%、「日常会話や外出など、子供との普段の接触を増やした」82.2%、「子供の進路や将来について不安が大きかった」80.4%となっている。



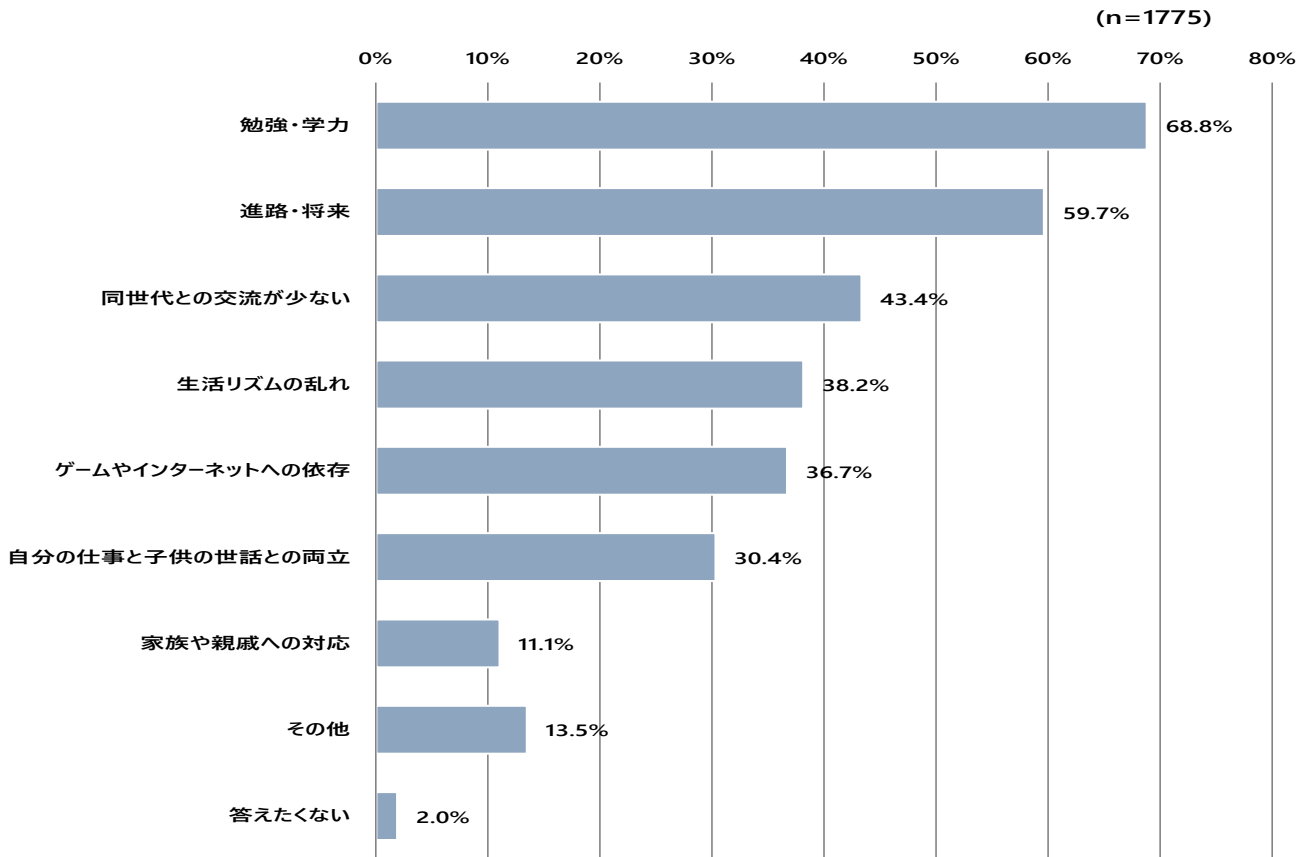
⑧学校や関係機関に関する、保護者から子供への働きかけ

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、「学校に登校するかどうかは、子供の意思を尊重した」が最も多く95.8%となった。



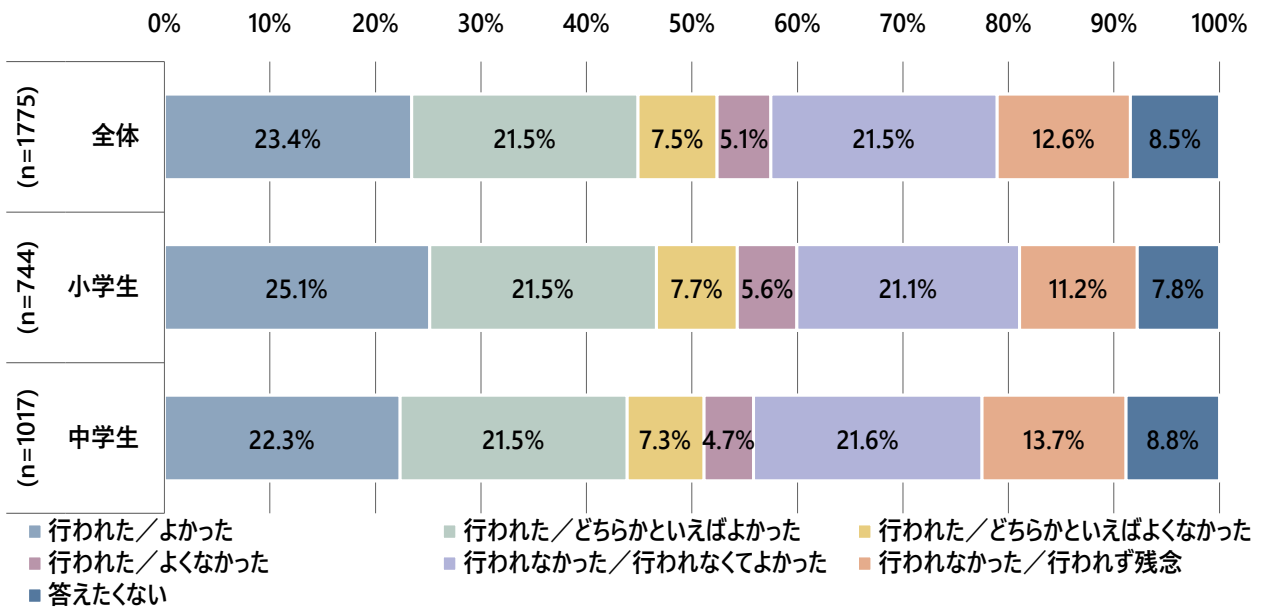
⑨今、子供のことで困っていること

「勉強・学力」(68.8%)、「進路・将来」(59.7%)の回答が多い。



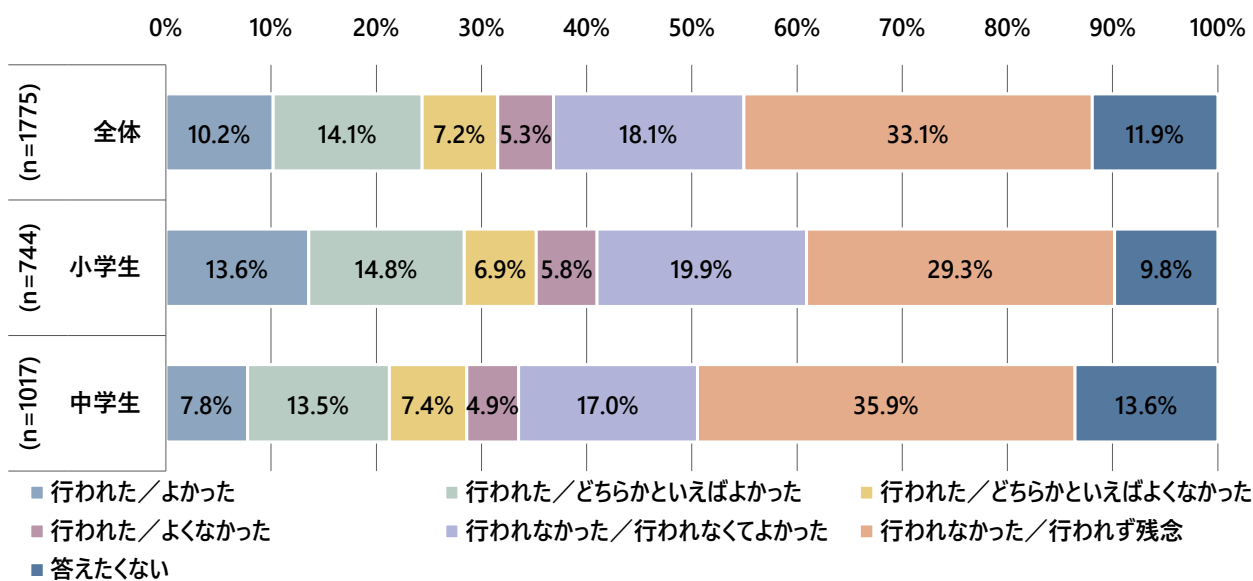
⑩スクールカウンセラーへの相談

実際に相談を利用し、「よかった」等の肯定的な回答が44.9%、否定的な回答が12.6%、「利用できず残念」が12.6%であった。



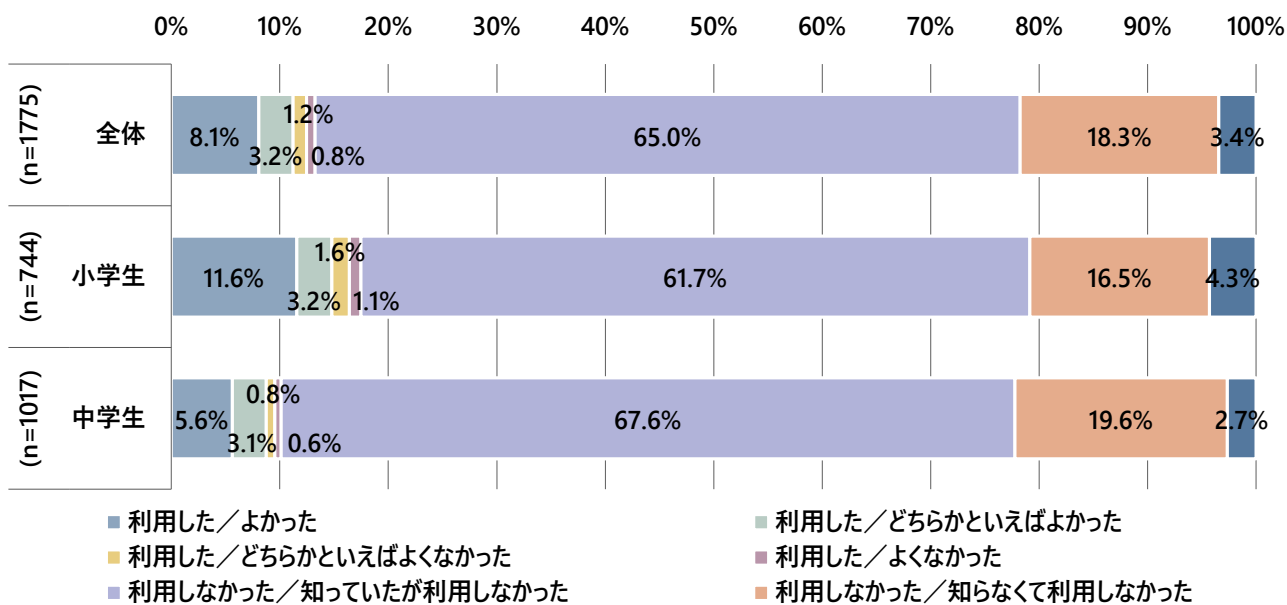
⑪学校によるオンラインを活用した学習支援

「行われずに残念」が33.1%で最も多い。

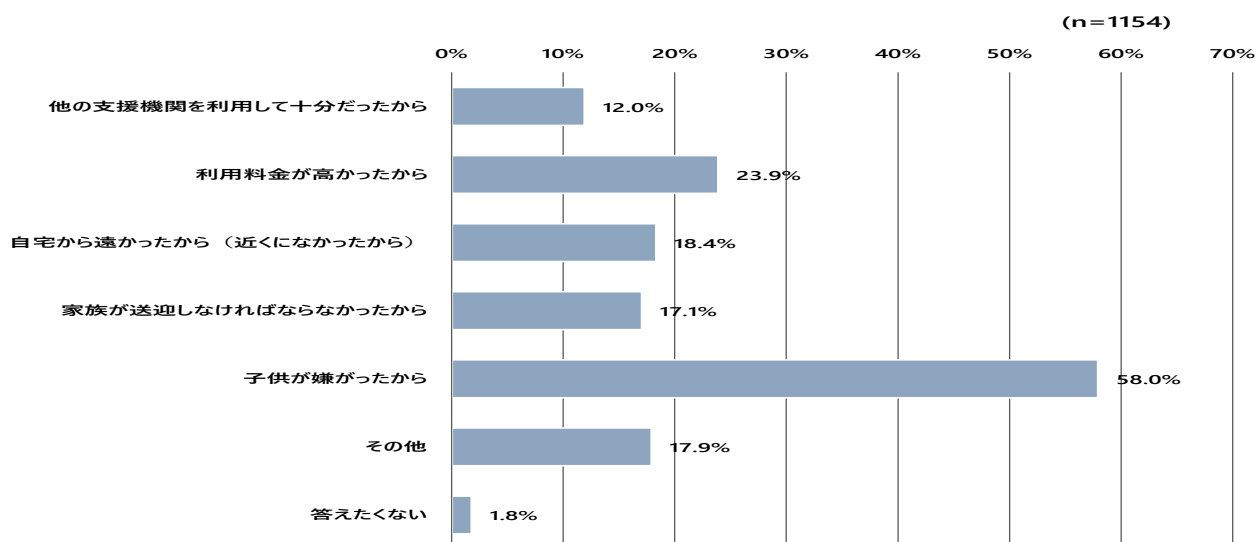


⑫民間施設（フリースクール等）へ通所

「知っていたが利用しなかった」が65.0%で最も多い。

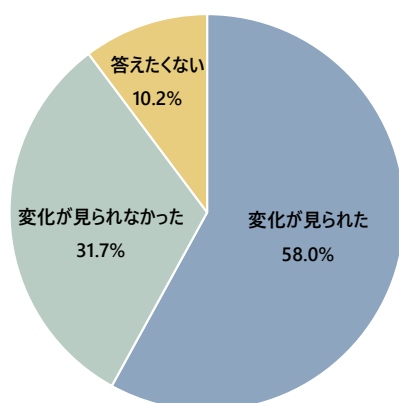


⑬「知っていたが利用しなかった」理由：民間施設（フリースクール等）へ通所
「子供が嫌がったから」が最も多く 58.0%、次いで、「利用料金が高かったから」
23.9%となっている。



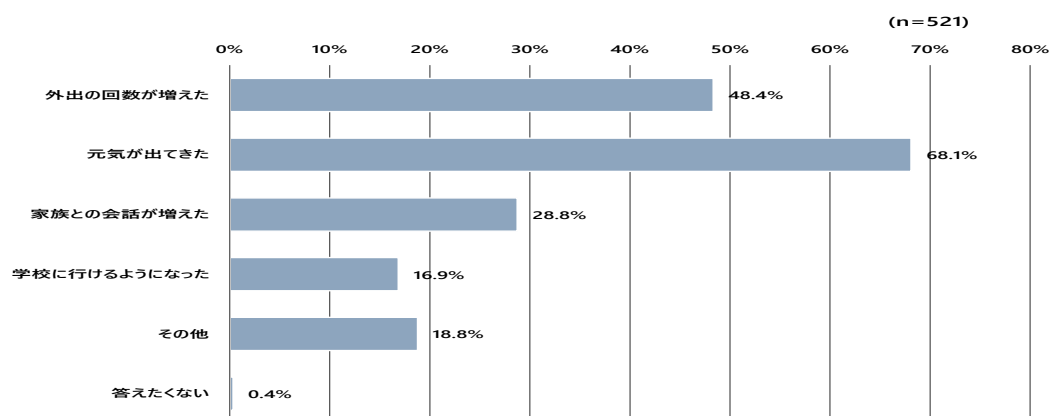
⑭支援機関を利用し始めてから子供に変化が見られたか
「変化が見られた」が 58.0%、一方「変化が見られなかった」は 31.7%。

(n=898)



⑮変化の具体的な内容

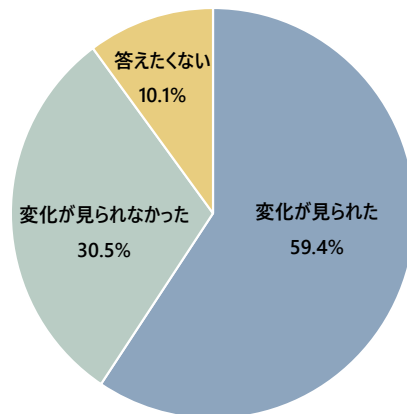
「元気が出てきた」が最も多く 68.1%、次いで、「外出の回数が増えた」が 48.4%。



⑩支援機関を利用し始めてから家族に変化は見られたか

「変化が見られた」が59.4%、一方「変化が見られなかった」が30.5%。

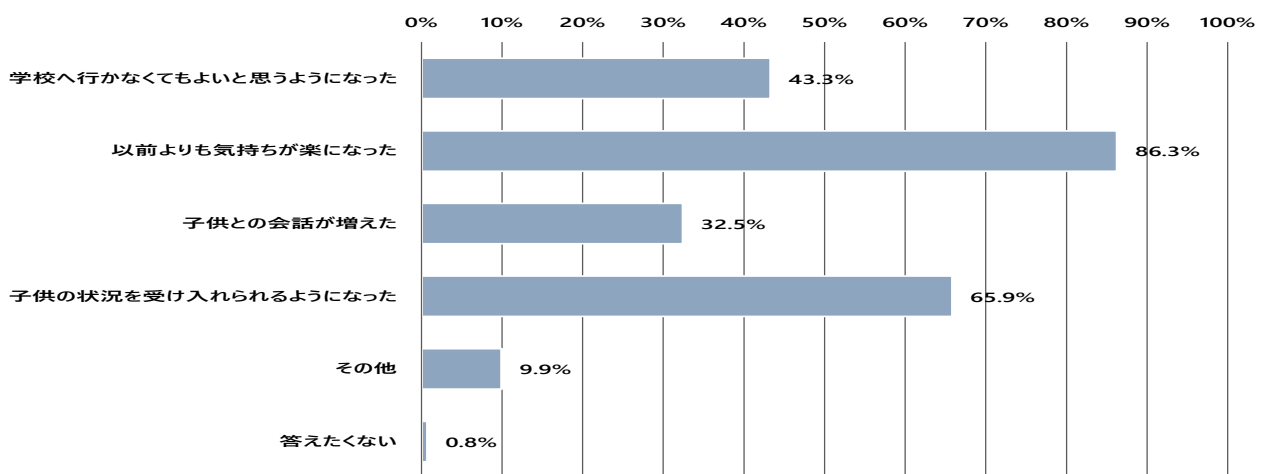
(n=898)



⑪変化の具体的な内容

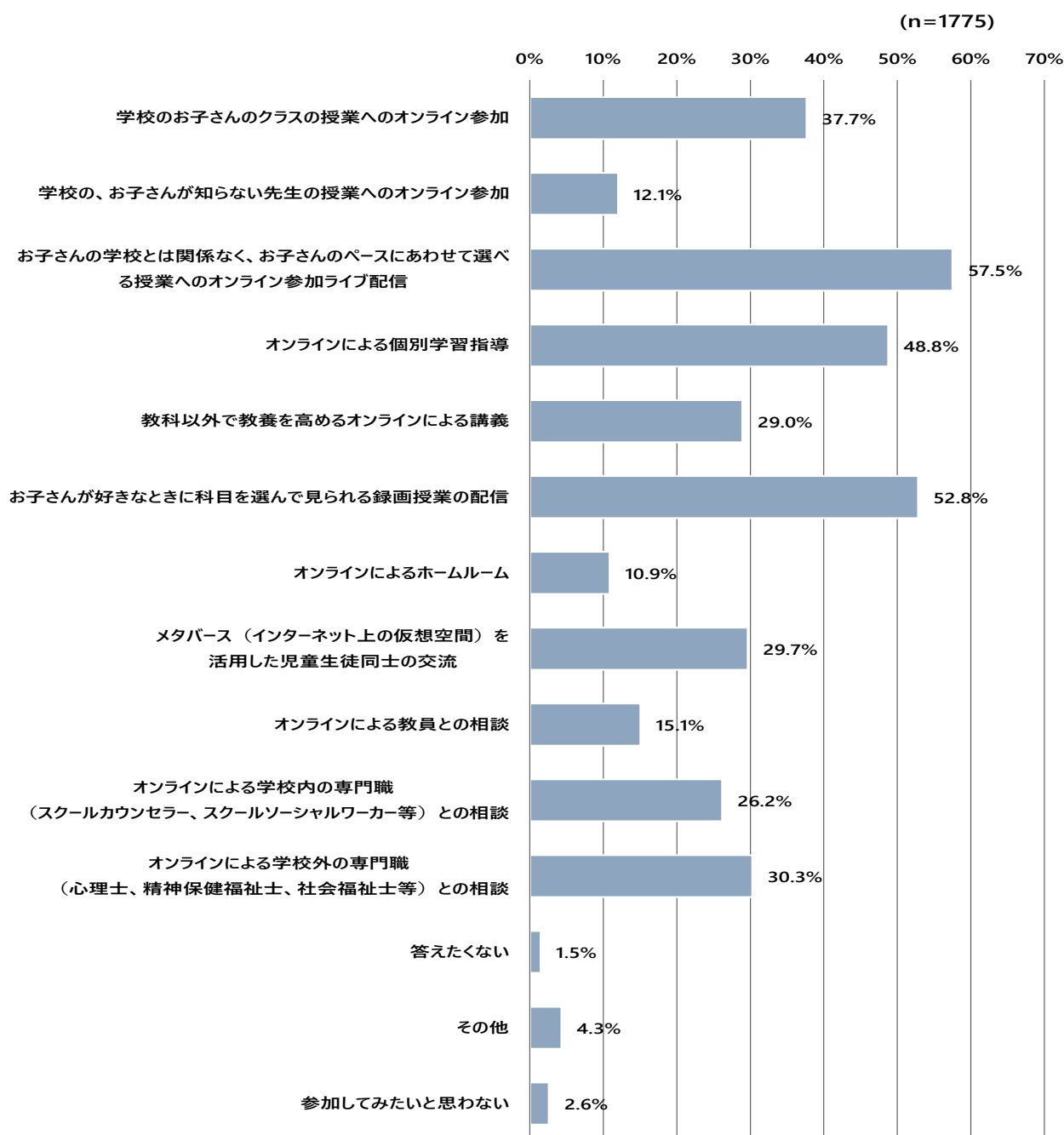
「以前よりも気持ちが楽になった」86.3%で最も多く、次いで、「子供の状況を受け入れられるようになった」が65.9%となっている。

(n=533)



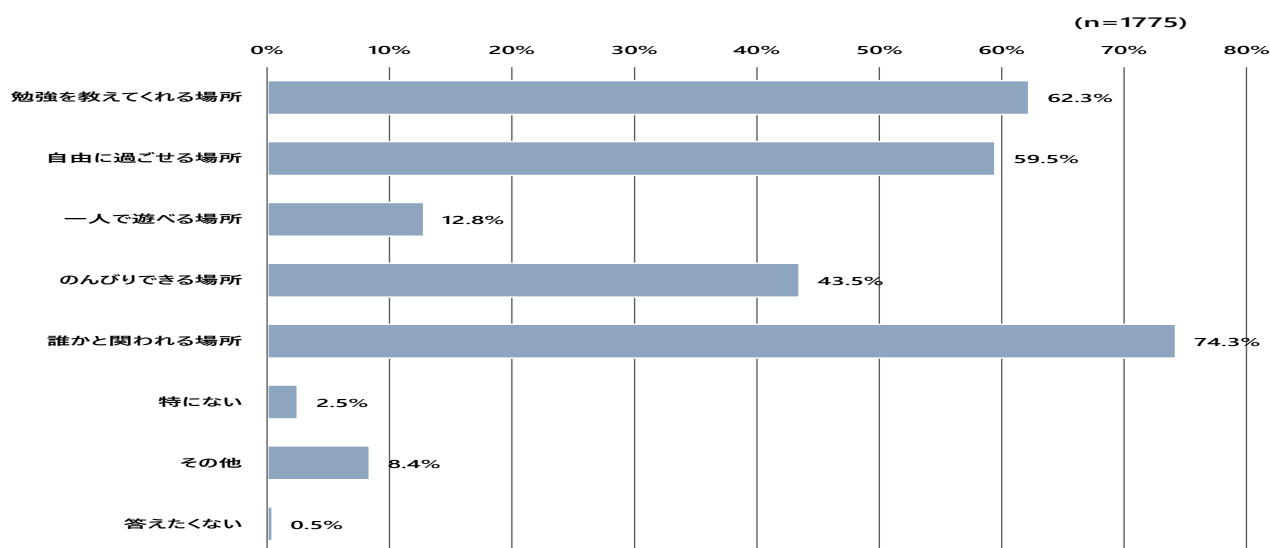
⑱インターネットでどのようなことに参加させたいか

「お子さんの学校とは関係なく、お子さんのペースにあわせて選べる授業へのオンライン参加ライブ配信」が最も多く57.5%、次いで、「お子さんが好きなきに科目を選んで見られる録画授業の配信」52.8%となっている。



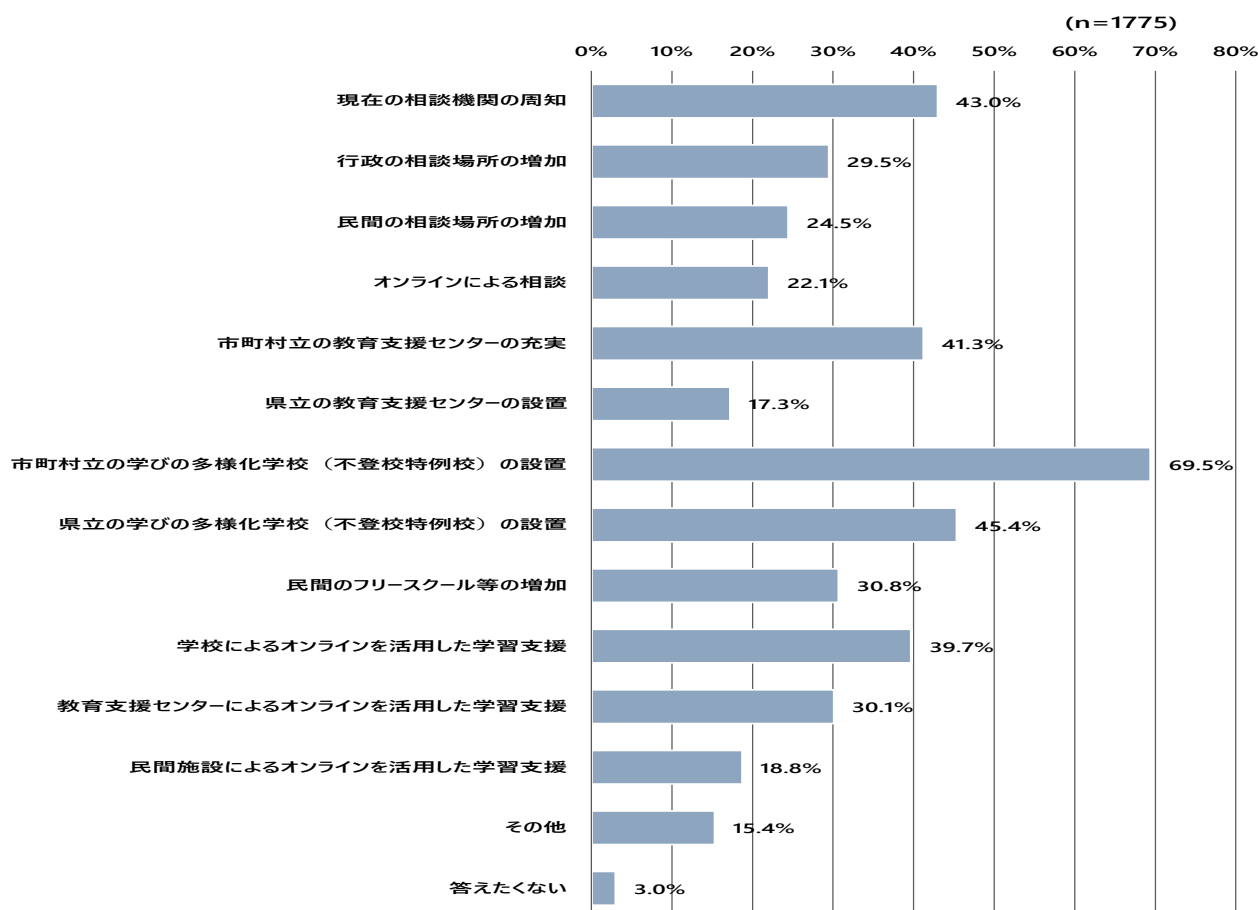
⑱学校を休んでいる時、どのような場所で過ごさせたいか（自宅以外）

「誰かと関われる場所」74.3%と最も多く、次いで、「勉強を教えてくれる場所」62.3%、「自由に過ごせる場所」59.5%となっている。



⑳不登校児童生徒への支援において、今後どのような取組が必要だと思うか

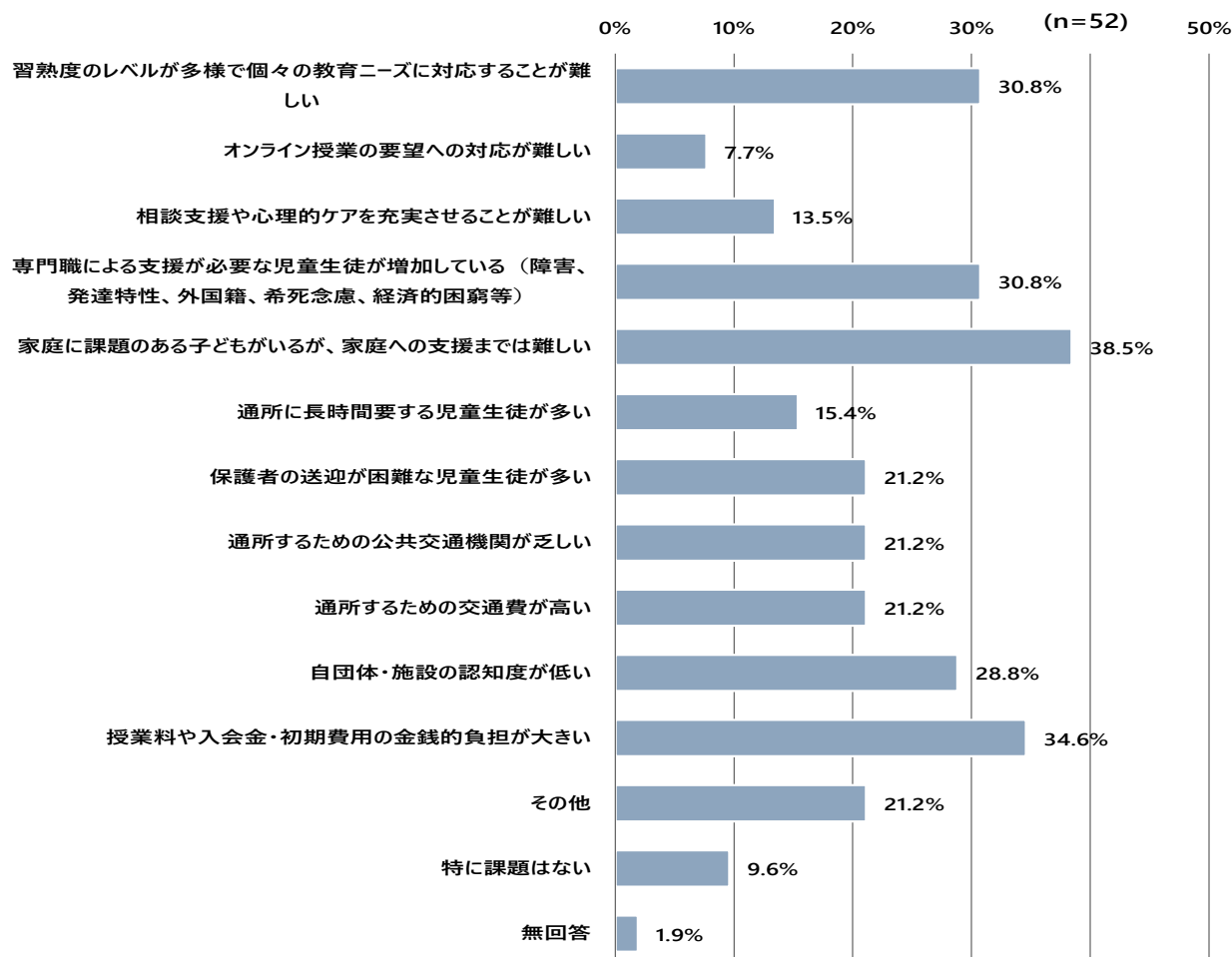
「市町村立の学びの多様化学校（不登校特例校）の設置」が69.5%と最も多く、次いで、「県立の学びの多様化学校（不登校特例校）の設置」が45.4%、「現在の相談機関の周知」が43.0%となっている。



(3) フリースクール等民間団体への調査

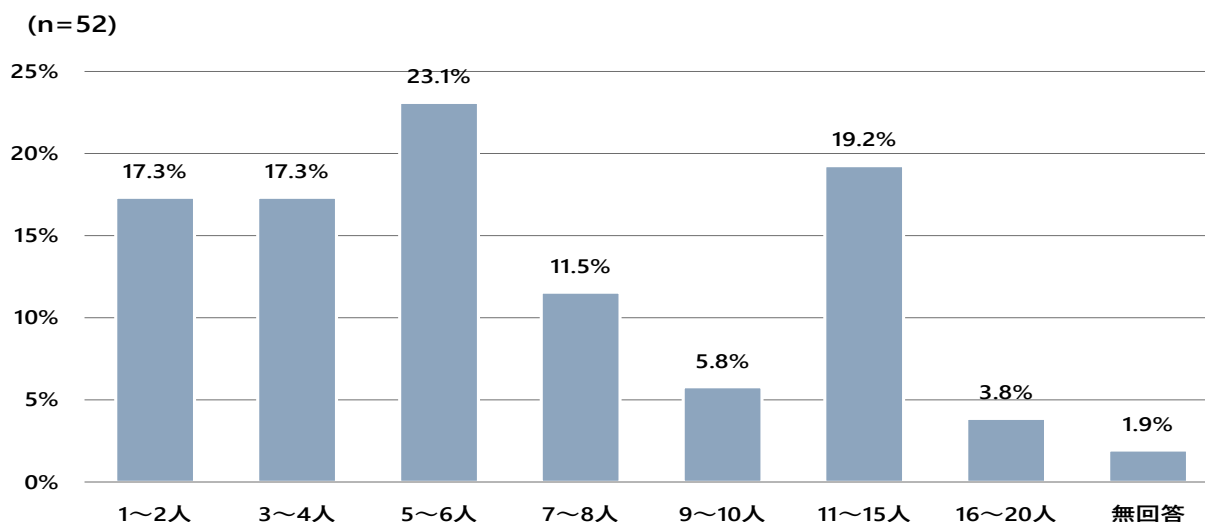
⑪ フリースクールから見た不登校児童生徒が利用するにあたっての課題

「家庭に課題のある子どもがいるが、家庭への支援までは難しい」が最も多く38.5%、次いで、「授業料や入会金・初期費用の金銭的負担が大きい」34.6%となっている。



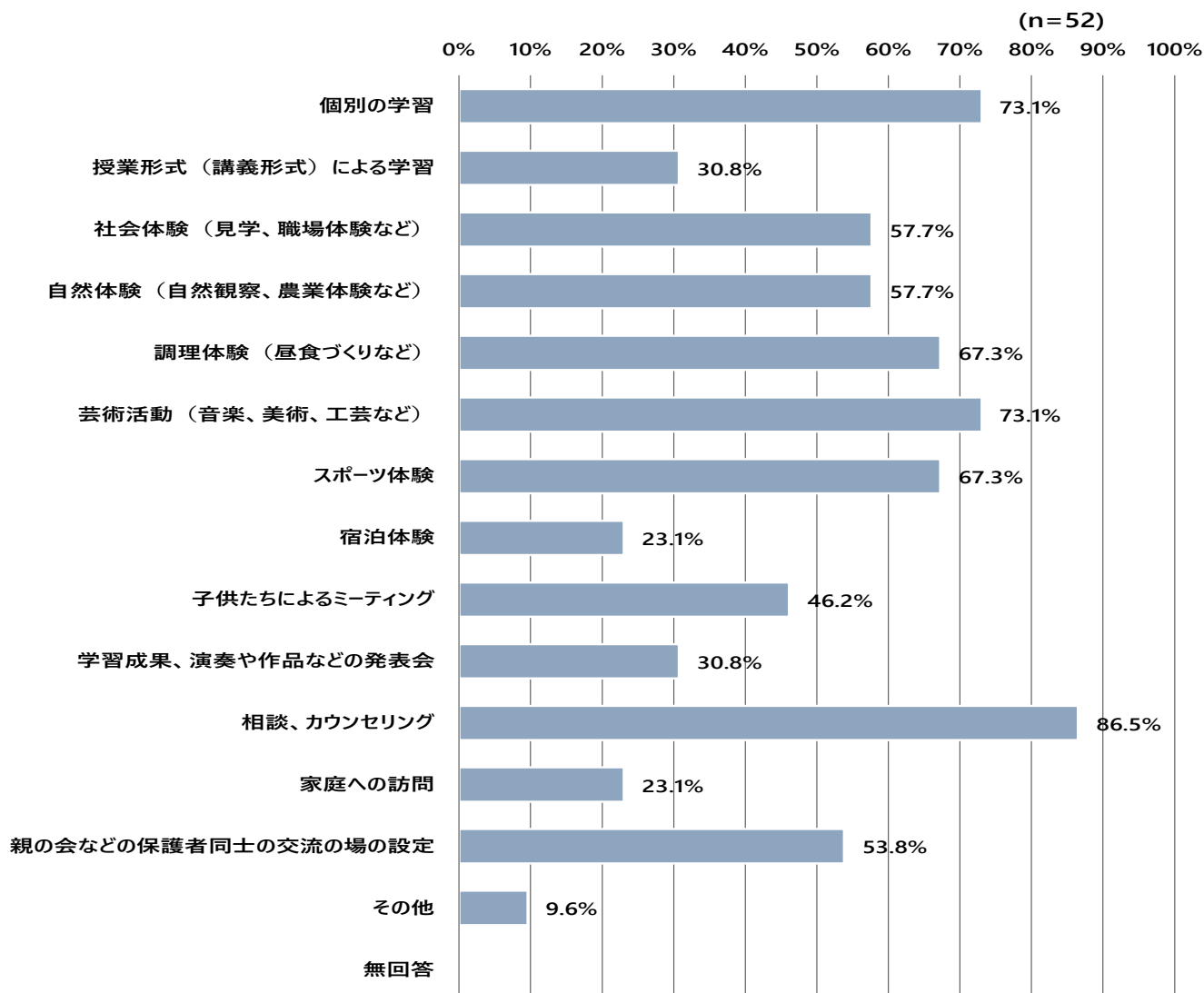
⑫ スタッフ数（総数）当たり団体・施設数

「5～6人」が23.1%と最も多い。



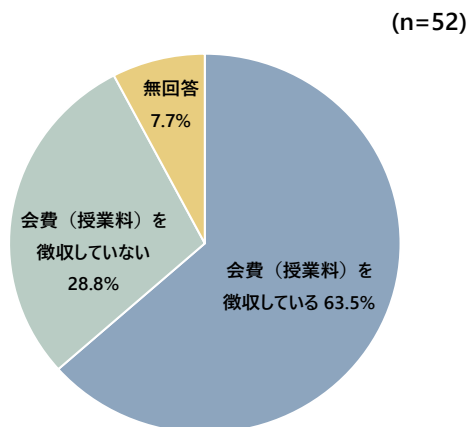
⑬ フリースクール等の活動内容

「相談、カウンセリング」が86.5%と最も多く、次いで、「個別の学習」「芸術活動（音楽、美術、工芸など）」がともに、73.1%となっている。



⑭ 会費（授業料）の徴収

「会費（授業料）を徴収している」が63.5%、「会費（授業料）を徴収していない」が28.8%となっている。



②⑤全体の運営費のうち、入会金・初期費用、会費（授業料）の月額、及びその他の納付金の収入により賄える程度

「全額賄える」「70～90%程度賄える」を合わせると 26.9%、「ほとんど賄えない」「収入なし」を合わせると、46.2%となっている。

